

Q1:川辺川の濁りが続いています、原因は何ですか？

A1:大雨により川辺川の上流で多くの山腹崩壊や河岸の洗掘等が発生し、一度に大量の土砂が河川内に堆積したため、その土砂の微細な粒子が少しずつ下流に流れることにより濁りとなっています。

◎平成17年9月 台風14号時の降雨状況

大型で非常に強い台風14号は、平成17年9月6日朝から昼前にかけて鹿児島県薩摩半島の西海上から天草付近を通過しました。同日午後2時過ぎには、長崎県諫早市付近に上陸し、佐賀、福岡を縦断、夜には山口県の西海上から日本海に抜けました。

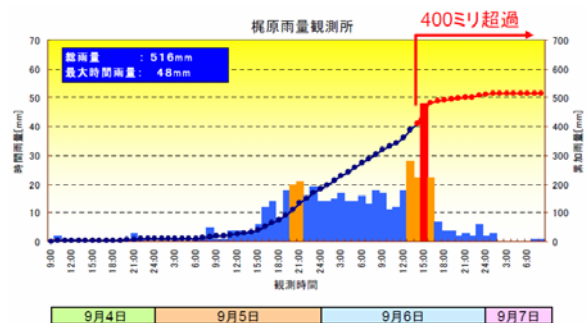
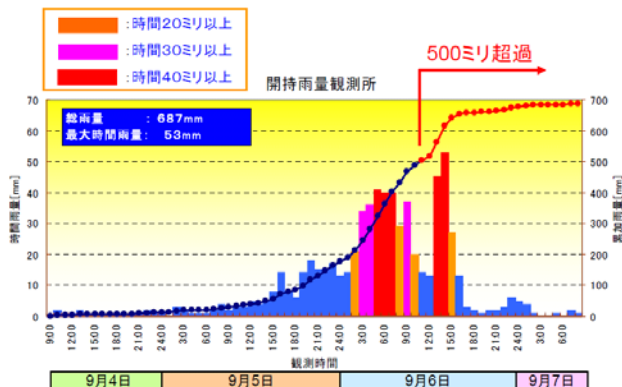
この台風の影響により、球磨川流域の総雨量(注1)の平均値(注2)は約420ミリの達し、山間部の一部で総雨量は900ミリを超えました。

注1:総雨量とは9月4日の降り始めから7日8時までの総雨量。以下、同じとします。

注2)総雨量の平均値は流域内23箇所雨量観測所の総雨量の単純平均値。



7日9時現在の雨量状況
(上段は7時～8時までの時間雨量、
下段は降り始めからの総雨量)



【開持観測所の降雨状況】

- ・6日2時頃から1時間に30ミリを越える雨が5時間連続して降った！
- ・降り始めからの雨量が500ミリを越えた後に、1時間45ミリと53ミリのバケツをひっくり返したような雨が降った！

【梶原観測所の降雨状況】

- ・降り始めからの雨量が400ミリを越えた後に、1時間48ミリのバケツをひっくり返したような雨が降った！

◎山腹崩壊の状況



川辺川の上流域では、台風14号に伴う降雨が原因で、195箇所もの山腹崩壊等が発生しました

◎河床への堆積状況

川辺川の上流域では、山腹崩壊や河岸の崩壊等により、小原川合流付近より上流約10kmにわたり、大量の土砂が河川内に堆積している。



① 川辺川(球磨川合流点より約48km上流・八代市泉町)

10月1日測量

